

糸 Doctor's File 『自分』が『自分』に認められるために

糸 会員インタビュー Vol.23

早乙女歯科医院 院長 早乙女 均先生

JAZZやオーディオ、車は1970年のミニクーパースなど様々な趣味を持たれる早乙女均先生。今回は、その中でも一番興味を持たれているというロードバイクについて、その魅力などについてお聞きしました。

— 早速本題に入りますが、ロードバイクを始められたきっかけを教えてください。

何かの本で、ある程度の年齢になったら「男は10の趣味を、かつその内1つ2つは語れるものを持たなくてはいけない」と書いてあり、僕はもともといろんなものに興味はあるのですが、その中でも深く掘り下げた趣味を持ちたいな、と考えだしたことがきっかけです。

このつくばという地区はロードバイクのメッカだし、自分も子どもの頃から自転車は好きだったこともあって、ロードバイクのことをいろいろと調べていたら、材質はもちろんコンポーネントなどすべての部分において、自分が想像していた以上の進化を遂げていました。健康のためも含めて本格的に趣味として確立していきました。実際ロードバイクに乗り始めたのは2000年からでして、いまでは年間6,000～7,000Kmを走っています。

— ロードバイクの魅力は何ですか。

ロードバイクは、実はすごく奥が深いんです。ただ単に外を走ると思うと大間違いで、すべての調整がミリ単位になります。僕らのレベルでもブレーキのタッチ、ステムやサドルの位置をミリ単位で調整したり、またギアの歯数の選択をしたりと、自分に合わせていくことも楽しさの一つです。重量7kg弱の単純な構造ながら、精密機械のような精度を有する面白い乗り物です。

また、とても紳士的なスポーツで、個人競技でありながらもチームプレーも大事で、一人勝たせるためにすべての犠牲をみんなで払うということもあり、スポーツとしてヨーロッパでは長い歴史と人気があります。僕はチームに所属したりスピードを競うのではなく、皆と走るのも楽しいのですが、基本的に自分のペースで楽しんでいます。僕の場合、趣味に関しては「自分が自分に認められること」が一番重要なことですから。

どういうことかという、仕事って人にどれだけ認められるか、いかに人が自分のことを評価してくれたり頼ってくれたりしてもらえるか、というのが仕事の本質だと思っています。特に医療人にとっては大切です。その点で、趣味は全くそれがありません。誰かに認めてもらえるかというわけじゃなくて、自分がいかに自分に認められるか、ということが趣味の本質だと思っています。自分にとってロードバイクは、仕事のONとOFFの最良のツールです。

— ロードバイクに乗っていて、この瞬間がたまらないと感じる時はどんな時ですか。

ロードバイクに限らず趣味って全部そうですけど、プレミアムスイッチってありますよね。僕だと、

ウェアに着替えて朝バイクにまたがりペダルにクリートを入れた瞬間に、そのスイッチが入ります。例えば野球だと、ユニホームを着てグローブをはめた瞬間にスイッチが入るとか、そういうことが大事だと思っていて、それがあつ限り年齢は関係ないし、スイッチが入るとそれは自分への最大のご褒美です。

コースは、霞ヶ浦一周や筑波山のつつじヶ丘(標高542m)を上り、筑波山周辺約100kmというルートをよく走っていますが、定点観察のように同じ場所を走っていると、鳥の鳴き声や花の香り、四季折々の季節感など自分だけにしかわからないような瞬間に出会えることも至福で、その時々写真をもう一つの楽しみとしてInstagramに投稿しています。また走り切った後の達成感や充実感が大きく、それもロードバイクの醍醐味で仕事の疲れやストレスを忘れます。

ちなみに今年の残りの目標は、志賀草津高原ルート(国道最高地点)と軽井沢の碓氷峠、日光のいろは坂を苦しみながら制覇することです。



ホノルルセンチュリーライド2014のゴール地点で

— どのロードバイクも、とてもきれいに整備されていますね。

歯科医という仕事柄、道具の大切さやその恩恵、ありがたさを日々痛感していることもあり、愛着も出て「物」を相棒化してしまいます。人も「物」も、縁があったものは特に大切にしたい気持ちがあります。

また、自分でいじるのが本当に楽しくて、塗装やパーツの工夫もし、ミリ単位でこだわってしまいます。ただ、それが結果としてタイムに繋がるとかそういうことは問題ではなく、それらの作業の間に何回笑顔になれたかということが重要だと思っています。だから、乗って喜び、見て喜び、整備して喜び、です。ただ、メンテナンスだけはプロにお任せしますけどね。

メンテナンスと言えば、僕がお世話になっているのはバイクショップフォルツァで、ショップがサポートしている女子選手は連続の日本チャンピオンであり、スタッフは選手のマニキュアのサポートもしているので、つまりはその高いレベルのマニキュアに自分のバイクをメンテナンスしてもらえる、貴重で嬉しい機会です。

また、今使用しているフレームは以前ツール・ド・フランスで優勝したバイクと同モデルで、バイ



早乙女 均先生 (61歳) 略歴
1980年 明海大学歯学部卒業。歯学博士。
明海大学歯学部口腔外科第二講座入局、国立がんセンター頭頸部口腔科、埼玉医大麻酔科研修、非常勤講師を経て1991年につくば市にて早乙女歯科医院を開業。

クならでは世界の逸品や技術を直接体感することができるのも、楽しさの一つです。

— 海外の大会にもエントリーされるのですか。

僕は、皆にハワイしか行かないのか、って言われるくらいハワイ好きなんです。でもハワイに行っても食事と風、空気をのんびり楽しむのが好きで、まさしく休職なんですけどね。しかしバイクのことなれば別で、今年もホノルルセンチュリーライド2017の100マイル(約160km)にエントリーし、先日走ってきました。ホノルルマラソンのロードバイク版で2000人位が出場するイベントなんですけど、開催は9月最終日曜日と決まっているんです。その時期は日本ではシルバーウィークと重なり、予約の調整が大変です。

あと、自分のロードバイクを空輸するために梱包するんですけど、よりきれいにパッケージするにはどうするかという工夫が始まってしまいます。まあ、それも含めて楽しいのですが、まさしく“RIDE ALOHA”です。

— お話をお聞きしていて、診療に興味にとっても充実されているのが伝わってきます。

最近になって息子も診療を手伝ってくれています。息子は口腔外科の認定医を取得しており、現在は月1、2回位外科処置を中心に手伝いに来てくれますが、ゆくゆくは後を継いでくれるそうです。娘も含め家族が皆診療に協力してくれて、また職員にも恵まれ本当に幸せです。

これからも、楽しく走るためにしっかり仕事し、また、楽しく仕事するためにしっかり走りたく、と思っています。

— これからも先生のご活躍を期待しております。本日は貴重なお話を有難うございました。